



ZENFUREN

2015年10月2・3日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第5回全国大会

校種別分科会

教育後援会会長会

これからの附属学校のために機能する教育後援会とは



全附P連の田中米育総務委員長の司会のもと、久保眞司元会長と具本啓郎理事のお二人を座長に、そして文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長補佐の森次郎氏を助言者にお招きして開催されました。今回は第3回目ということで、まずは過去2回おこなわれた同会の経緯を久保座長が説明をされました。過去2回の会議において、各学校により寄付金の処理方法や考え方が違っていることが歴然とし、さらには各大学における対応がまちまちで全国で画一化されていないということ、大学法人化とともに寄付金の存在価値が高まっているなかで、寄付金の任意性もあり、近年教育後援会への入会辞退や寄付金未納が課題となっている現状が報告されました。

そういった諸課題が次々と浮き彫りになるなか、公立校が抱える諸問題が社会の縮図である附属学校においても同様の現象が起きていて当然ということで、「貧困」をテーマにテーブルディスカッションを行いました。貧困問題に対し、教育後援会としてどう向き合うのか、教育後援会長としての認識と今後の対応について、各テーブルにおいて白熱した議論がかわされました。「家庭のプライベートな部分について教育後援会が踏み込むべきではない」、「寄付金未納の原因は貧困だけではない」、「貧困家庭に対する寄付金の減免」などといった意見が出された後、学校側が保護者の養育態度や家族

構成などはある程度把握できているのに対し、経済的状況の把握はほとんどされていないということ、さらには貧困家庭の割合が、6人に1人といわれる全国平均より少ないながらも、中学、高校と子どもの年齢が上がるにつれて経済的に貧しい家庭が増加しているなどの調査結果が報告されました。

教育後援会が単なる資金管理のみを目的とした組織であっては、近い将来組織はなくなっているかもと危惧する声が聞こえる中、各学校の教育振興を図るために、資金提供をおこなう我々の活動が、子どもたちの健やかな成長につながり、ひいては国の発展に寄与するという認識のもと、各ご家庭からいただいた大切な資金を扱う組織として、多様な社会問題に対する正しい認識と更なる公明正大が必要だと感じました。

最後に、森室長補佐から「少子化が進む中、大学も個性を明確に特色あるカリキュラムを打ち出すなど、変化に対応している。貧困だけでなく多様なセンシティブな問題に対して常に公平で真摯な姿勢で臨み、世の中の変化に適応する柔軟性が求められている。今後も安定した奨学寄付金の確保と適正な運用をしていく使命をおって引き続き活動を進めていただきたい」というご助言を賜り、盛会裏に会を終えました。



山口大学教育学部附属幼稚園
後援会会長 山下鉄旨 取材